

淀協・東日本地震対策本部ニュース

No 8 2011.3.24 淀協東日本地震対策本部

第5次支援隊の小玉看護師から 現地にむかう元気なメールが届きました

おはようございます。3月23日(水)朝9時にバスが出発しました。バスの中で全日本民医連の藤末会長が報告された中身をお伝えします。

昨日4月以降の支援を全日本で検討され、早ければ朝には文章が下りる予定です。急性期が一定終わり慢性期の対応や急性増悪に対する対応が求められます。日赤や医師会など他のチームとの連携をとり避難所訪問を行っていく予定で、まだまだ孤立したところもありそこへの支援も開始していく予定です。

被災地スタッフは相当疲れています。支援者に求められるのは自立した支援です。いま松島は外来診療が開始。この地域は北に気仙沼、石巻などあり被害の大きいところです。坂総合は多賀城、塩釜など坂は20万人の急性対応の拠点です。この機能を維持する事が求められます。

坂も明日から外来診療を開始するため外来の掃除片付けなど必要です。

長町は仙台空港の近く。捜索活動がまだ続いて自衛隊しか入れない状況。津波で流されたものの建物は壊れてない。外来はひびなど入って使えない。入院施設は大丈夫なため、入院施設で入院外来両方を行っています。

坂総合病院で急性期治療が終わった人の帰る場所がない。帰るなら避難所か流された家かの出口がない状態です。引き続きケアのいるひとは長町病院に送って、坂総合病院の急性期を守ることが大切だそうです。今後は看護ケア、メンタルケア、リハビリが必要です。

岩手は、陸前高田市は海岸から10キロに流木もあり壊滅状態。民医連は急性期病院を持っていない地域です。他の急性期の病院も潰れ、医師や他のスタッフは地域に入って活動を行っています。今後は仮設診療所を10ヶ所作る予定でその一つを民医連が担当する可能性があります。

国の対応は、現時点でかかった医療費の支払いは猶予すると言っているが、民医連としては猶予ではなく免除の要求をしています。介護に対しては全く再開されておらず、治療しても廃用がすすみ、病気の再発、発症が起こってくる。民医連としても介護支援の方針をだす予定で、国にも要求していく方向です。

全体的に次の段階に進んでいます。全体の状況を把握しながら必要な支援が求められると思いました。

とりあえず報告します。

私も花房医師も緊張はありますが元気です。

3/23(水) 9:48 着

第6次支援隊2人が決定しました

3/26(土)東京泊～3/31(木)帰阪

西村祐美子看護師、廣川昂彦氏

(共に、よどの里職員)

本日(3/23)までに寄せられた義援金

職員 のべ 3,472,239円(306人)

職員外 のべ 426,956円

合計 のべ 3,899,195円

本当に、ありがとうございました

支援中！園部看護師のメール報告

3/22(火) 23:30 着

本日の勤務終了しました。

明日から外来がスタートするようです。坂のスタッフ達も疲れのピークのように、支援体制の濃い間にもっと休んで欲しいと思うのですが、子連れ出勤されたり、がんばっておられます。外来患者さんも、片付けで怪我したり、転んで血胸をおこしたり、狭心症発作や慢性腎不全の悪化など、対応に追われました。避難所には、日赤とかちあったりすることもありますが、孤立している所にどう入るかが課題のようです。